

平成 30 年度第 1 回労働衛生専門委員会
「第 7 回生活環境・職場ストレス調査」本報告書に対する各委員コメント

■委員会でいただいたコメント

一議題(2)「第7回生活環境・職場ストレス調査」本報告についてー より

- この調査は、過去に自殺がつくばで非常に多いことが注目されて開始されたもの。自殺念慮が高いということに関して本調査を更に検査を進めてほしい。
- 一年以内に自殺念慮を持った人に関して生活環境や人間関係の要因がどの程度影響しているのかを分かるように解析を行ってもらえると有意義である。

■委員会後にメールでいただいたコメント

- (P.3)調査対象と有効回答率の記載があるが、このようなアンケート調査の結果報告の場合、調査期間と調査方法も記載するのが一般的ではないか。可能であれば追記いただけると良い。
- (P.26～27)BSJS の結果について P.26 の1段落目によると「あまりに仕事が多すぎる」などのストレス増強要因は「そうである」が1点、「全くそうではない」が4点で、点数が低いほどストレス増強要因が高いと読める。一方で、2段落目では点数が高いほどストレス増強要因が高いと記載されており、読者の誤解を招く可能性がある。(おそらく、ストレス増強要因については調査票の点数を大小逆転させて利用しているのではないかと思います。そうであれば1段落目と2段落目で同じ「点数」という用語を使われないほうがよいのでは、と思いました。)
- 調査結果を各機関の組織運営や人事管理等にどう活かしていくのかを検討していく必要がある。
- 調査結果を基に、つくば市等に生活環境の改善要請(施設・設備の改修等)、筑協としての提言などを行う必要がある。(今後の具体的なスケジュールや方向性は決まっているのでしょうか。)
- 各機関の実態に応じて各機関が対応策を考えることになる、ワーキンググループにおいて対応策を検討する際の目安となるものを策定して頂けるとありがたい。
- 特に「自殺念慮」の調査結果から、少なからず自殺の恐れのある人がいるので、そのような方々の不安や悩みを少しでも和らげる手助けとなる方策を考えていくことが出来ると良い。